

学びの自覚を図る評価の在り方

～評価の目的と自己評価と相互評価～

昭和小学校

田中 祐子

1 授業改善の視点

- ・ 自己評価と相互評価の在り方

2 具体的な実践

(1) 評価とは

評価とは、通知票に表記するためだけのものではない。評価とは児童理解であり、児童がどんな学習状況であるのかを見取ることである。

＜教師にとっての評価＞

- * 子ども一人一人への指導・援助方法の改善や補足。
- * 教師自身の活動や指導・援助の見直し。その子へのかかわりを計画・再考

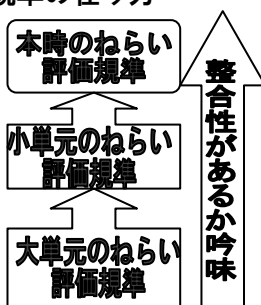
＜子どもにとっての評価＞

- * 自分の学習状況に気づき、自分を見つめ直すきっかけ。
- * その後の学習や発達を促す。

活動の結果や見栄えを評価するのではなく、活動過程における良さやがんばりに目を向ける立場で、その子なりの活動や変容をきめ細かく分析し、具体的な視点から評価することが大切である。

(2) 評価の観点と評価規準の在り方

評価の観点は各教科によって異なる。どの項目も評価をする必要はあるが、全てを評価しきれない。そこで、単位時間のねらいと同



じように評価の観点の重点化も必要となる。本時のねらいが「知識・理解」なら、評価の観点の重点も「知識・理解」となる。

また、評価規準もきちんと設定し、ねらいと評価規準に整合性があるか検討する必要がある。評価規準は「何がどの様にできたらOKなのか」具体的にすることが大切である。担任や

担当教員以外の人も評価できるような具体性が大切である。

(3) 教師による評価方法

評価は常に行うものである。導入・展開・終末と子どもの活動や学びが停滞しないように評価し、指導・援助を行う。ただ、一単位時間のねらいに到達できたかどうかを評価する時は展開の終盤か終末で行うことが多い。その時の評価方法の例を下記の通りである。

＜教師が行う評価の方法＞

- ・ 行動観察（しぐさ、つぶやき）
- ・ 発言、会話分析
- ・ 活動、作品分析
- ・ ノートの記述
- ・ 評価問題の正誤

(4) 児童による評価方法

児童が行う評価も、教師が行う評価の観点と同様に重点化を図る必要がある。重点化を図ることによって、子どもたち自身も、本時でどんなことができればよかったのかを自覚することができる。

① 自己評価

自己評価は一単位時間の終末で行うことが多い。この一時間で自分はどの様な学びを獲得することができたのかを確認するために行う。

自己評価にも教科によって様々な方法がある。その例をいくつか挙げてみる。

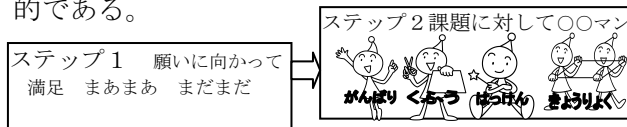
＜生活科の場合＞

あらかじめ、導入の時に本時どんな姿になればよいのかを明示する。終末では、自己評価の規準を教師から提示する。こうすることで、より自己評価の精度をあげることができる。

また、ねらいの重点化を図るために、「今日は工夫マンになれるといいね。」と導入で話し、終末は「もっと楽しくなる方法を友達と比べて

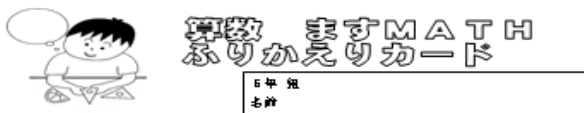
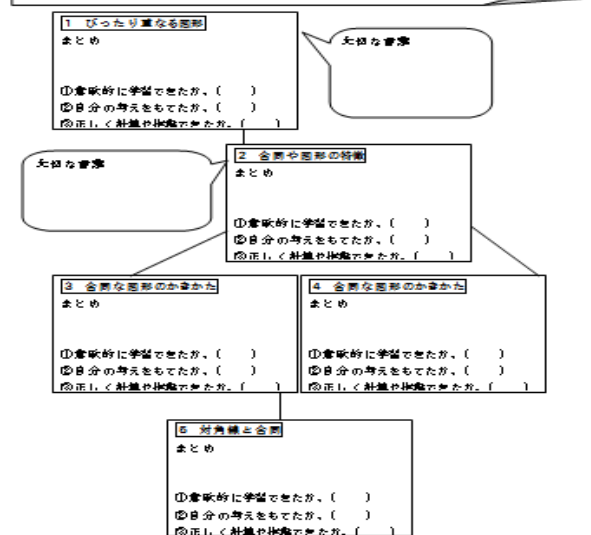
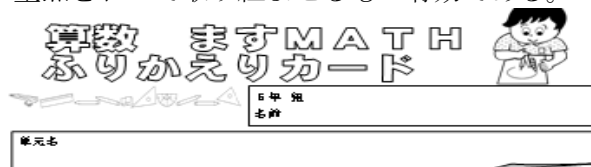
考えて、やってみた人は☆5つです。」と、規
準を明らかにして、☆の数で評価をさせる。

このように達成度を数値等で示すのも効果
的である。



<算数科の場合>

単元によって、自己評価や自己評価カードを
変えていくことは子どもたちの学びを高めて
いくために大切である。本時における身に付け
たい力がついているのかを確かめることを重
点においた評価カード。また、学び方を身につ
けさせるためのカード。それぞれ、単元ごとに
重点をおいて取り組ませるもの有効である。



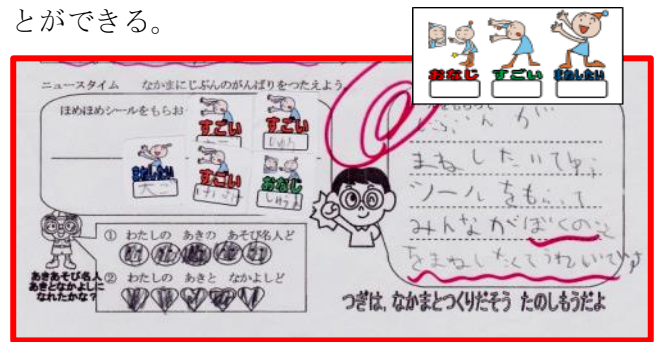
学習内容	学習目標				自分の取組みや仲間の学びのよき
	①意欲的に学習に取り組めた	②自分の考えをノートに書くことができた	③考えを整理することができた	④正しく並列対称ができた	
1 平行四辺形の面積を調べよう。					
2 平行四辺形を計算で求めよう。					
3 高さを見つけて面積を求めよう。					
4 平行四辺形の底辺の高さと面積の関係					

②相互評価

相互評価のいろいろなやり方がある。教科の
特質に応じて、子どもたちに「どこまで何が
できたら◎なのか。何ができていなかったら△な
のか。」を明示してから行うことが大切である。

<生活科の場合>

「お返事シール」を活用し、仲間からの賞賛
を通して相互評価を行う。活動終了後に、シー
ルで価値付ける活動である。シールを貼るとい
う行為で、シールを貼る側は仲間を評価し、貼
られる側は仲間からの賞賛をうけることができ
る。これにより、自分の活動や気づきがより
よいものであったのかを客観的に評価するこ
とができる。



カードを見せながら話す



聞いてもらった友だちからお返事シールをもらう

<国語科 音読会の場合>

評価の観点や規準を示す。音読の発表が終わ
ったら、一斉に「いいねえ。」などの札をあげ
る。「項目4つができていたら、札を高く上げ
る。(大きな声で)」「3つだった中間にあげる」
など、札の出し方を指示する。これなら、発表
者も評価する側も楽しくなり、発表してよかつ
たという満足感を得ることができる。

